

小泉総理訪朝の結果について

今回の小泉総理の訪朝は結果からすれば最悪のものであったと言わざるをえない。

当然成し遂げられるべき家族8人全員の帰国すら実現せず、北朝鮮が拉致を認めた8人については「再調査」という口約束のみであった。特定失踪者については一切言及すらなかった。これは特定失踪者のご家族の切なる願いを踏みにじったものだ。

さらに「人道」という名目のコメ支援、医薬品の援助を行う一方で経済制裁はしないことを約束するなど、日本の持つ多くのカードを手放してしまった。これまで行ってきた拉致問題解決への国民の努力の積み重ねを完全に否定するものである。およそ認められるものではない。

私たちは今回の総理の行動は国民への重大な背信であると考えます。しかし、このままで怒りを持つだけでは拉致被害者はその大部分が北朝鮮で救おうともしない故国日本を恨みながらその生を終えてしまうことになりかねない。それは私たち日本国民すべての責任である。

すでに小住建蔵さん、田中実さんと松本京子さんについては政府内部に拉致認定の動きがあるにもかかわらず首相官邸で止められていると聞く。また、山本美保さんのDNA鑑定など極めて不審な動きも見過せない。これでは政府は拉致問題を幕引きしようとしているとしか思えない。

私たちは日本政府が動かなくても、いや、妨害しようとも拉致された日本人すべてを救出することを決意した。ここであらためて志ある国民の皆様にご協力をお願いする次第である。

平成16年5月22日

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博